

シナイモツゴの郷に、里親制度や郷の米づくり手の会などを立上げ

31. 鹿島台シナイモツゴの郷【宮城県大崎市】

範	囲	宮城県の北西部に位置する大崎市、鹿島台地区のため池群					
所	在	宮城県大崎市山谷、広長、深谷集落					
生	物	地	理	区	分	コナラ林(東日本)	
環	境	要	素	小川・水路、ため池			
自然条件	地	形	大崎市西部の山岳地帯の荒雄岳を源とする江合川、船形連峰を源とする鳴瀬川の二つの大きな河川が西から東に流れており、その水は、市の北西から南東に広がる肥沃に満ちた広大な平野「大崎耕土」を潤し、昔から稲作が盛んな地域である。		 <p>撮影時期： シナイモツゴの生息集落の景観(中山間)</p>		
	植生・生物等	大崎市はブナ等の原生林が植生する鳴子温泉地域の栗駒国定公園、国の天然記念物であるマガンが飛来する田尻地域の蕪栗沼及び周辺水田やヒシクイが越冬する古川地域の化女沼という2つのラムサール条約湿地、シナイモツゴが生息する鹿島台地区のため池等の自然資源を有する。					
社会条件	人口(市町村)	135,127人(農家率15.2%、副業的兼業農家が多い) 大崎市のデータ(H22年)					
	土地利用	市総面積の24.0%が田畑、53.1%が山林である。 大崎市のデータ(H22年)					
	歴史・文化	本市は、豊穡な大崎平野を利用した稲作中心の農業を基幹として、農産物を背景とした経済・文化活動を基盤に国道沿いに発展してきた。さらには、国指定文化財である遮光器土偶や名生館官衙遺跡、旧有備館及び庭園に代表される史跡などの文化財が多数存在し、太鼓・神楽・獅子舞を中心に伝統芸能なども引き継がれている。					
法 指 定 、 行 政 に よ る 評 価 の 状 況	自然環境・景観保全や国土保全に関わる地域指定等	生息地保護区(種の保存法)					
	すぐれた自然、景観、伝統文化などとしての選定	「日本の重要湿地500」に選定(H9) 農水省、農村環境整備センター「田園自然再生コンクール 農林水産大臣賞」受賞(H18) 第65回愛鳥週間「全国野鳥保護のつどい」野生生物保護功労者表彰環境省自然局長賞(H23)					

取組主体	タイプ	連携組織:多様な主体の連携組織による取組		
	主な主体	名称	概要	
		シナイモツゴ郷の会	シナイモツゴの保全のための増殖事業や、ブラックバスの駆除を行う。	
経緯	シナイモツゴは 1916 年に鹿島台で初めて採集され新種登録された。1930 年までは東北地方ではフナ・ドジョウと同様普通に見られ、鹿島台ではドロコイと呼ばれ食用にされていた。しかし、それ以降 60 年にわたり正式な採捕記録がなく、鹿島台のシナイモツゴは絶滅したと思われる。1993 年に県内水面水産試験場が旧品井沼の水源の一つ「桂沢ため池」で 60 年ぶりにシナイモツゴを発見。それを受けて、大崎市(旧鹿島台町)が天然記念物に指定するなど、その保護が重要になっている。			
支援措置	該当なし			
取組の目的・目標	不明			
取組分野内容	農林業を通じた里山や草地の利用(管理)の維持・活性化	地域農業者が「郷の米づくり手の会」を組織し、ため池の水を利用した環境保全米「シナイモツゴ郷の米」の栽培と産地直送・産地販売の農家経営戦略を展開。さらに「シナイモツゴ郷の米認証制度」を構築し、「安全・安心で美味しい」環境保全米のブランド化にも取組む。		
	バイオマスなど新たな資源としての利用	【対象となる資源】 該当なし		
	環境教育や自然体験、エコツアーの場としての利用	自然観察会	「シナイモツゴ」の保護と増殖のための里親制度。その里親のもとを定期的に巡回し成長の確認・観察会を行う。	
		環境教育・学習活動	里親小学校での人工繁殖。インストラクターが飼育方法を丁寧に指導。	
		里地里山体験・環境保全	里親によって育てられたシナイモツゴの稚魚の放流や生息するため池のブラックバスの駆除活動。	
		農林業体験活動	水環境のパロメーターでもあるシナイモツゴが生息するため池の水を利用し、栽培した安全・安心な環境保全米「シナイモツゴ郷の米」として認証し、環境保全農業者を支援。	
		エコツアー	地元住民との生き物調査・生息地での小学校総合学習会。	
	その他	成果情報の発信(機関紙の発行・毎年秋にシンポジウムの開催・品井沼ヒシの栽培試験)		
	野生動植物やその生息地の保全・管理	シナイモツゴの生息するため池を干して天敵ブラックバスの駆除やタモ網でのバス稚魚の駆除。同時に自然の大切さを教える環境教育も行われた。 保護活動は、天敵のブラックバスの駆除、人工採卵方法の開発(現在、水に浮くプラスチック製植木鉢を産卵ポットとして活用。産卵率も従来の 20~30%からほぼ 100%へ上昇)、里親制度での保護増殖活動、里親小学校での人工繁殖と生息地での総合学習会開催、生息するため池の水を活用した環境保全米栽培や販売活動成果の情報発信のための機関紙発行、シンポジウム開催等。		
	地域の良好な景観の保全・修復	該当なし		
里地里山の伝統的な生活文化の知恵や技術の継承	対象	生活行事	【文化財指定】	
		資源利用技術		
		その他	稀少淡水魚のふ化・飼育技術	
NPO法人「シナイモツゴ郷の会」の活動として、シナイモツゴの採卵、ふ化、稚魚飼育などの増殖を目的とした里親制度と生息ため池の持続的な保全を目的としたシナイモツゴ郷の米認証制度を確立し、バス駆除後の生態系復元と保全を実現。今後、ゼニタナゴなど由来魚種の復元にも取り組み、両制度を拡大強化しながら地域ぐるみで淡水魚生態復元の地域拡大を目指す。				
連携・協働	【里親制度の取組】小学校(卵から育てる里親):受精卵を小学校の池に放流し、ふ化から成魚に至るまでの様子を観察しながら、シナイモツゴの増殖に協力。一般個人(水槽等で稚魚から育てる里親) 【生息地に適したため池の管理】地域住民・行政 【農業者の活動】「郷の米づくり手の会」の組織化:シナイモツゴが生息するため池の水を利用し、まごころ込めて栽培した安全・安心な環境保全米を「シナイモツゴ郷の米」として認証し、環境保全に取り組む農家を支援する「シナイモツゴ郷の米認証制度」を構築。			



撮影時期：  
シナイモツゴ生息地域の水路の風景

撮影時期：

景観としての  
利用・評価

不明

取組の特徴

稀少淡水魚シナイモツゴの保護を中心に、環境教育や農業活性化などの取組を拡大させている。地域住民、子供たちも参加して、絶滅危惧種であるシナイモツゴを守るための取組が行われている。保護増殖活動のためのシナイモツゴ里親制度や、シナイモツゴの生息池を守る地域農業者を支援する「シナイモツゴ郷の米認証制度」を構築し、市民と農民による地域ぐるみの自然再生活動を展開している。また、品井沼特産のヒシ復元プロジェクトとして、水田を活用した本格的な栽培試験とヒシを食材としたヒシご飯の試食会を開催している。ヒシは、水質浄化作用が抜群に高いことから、適正な栽培や管理による水質浄化などにも取組が期待されている。家庭で簡単にヒシ栽培が楽しめるペットボトルピオトープを提供し、郷の会のサポーターを増やす企画も実行段階に入っている。

さらにこの度、「郷の会」は、最も難しいといわれる稀少淡水魚ゼニタナゴ繁殖に成功。卵が産みつけられたドブガイを二枚目の棲息可能なため池へ移植するという画期的な方法で、全国 10 箇所程度しかない生息地を新たにふやすことができた。これまで、水槽で人工繁殖した事例はあるが、貝の放流による成功は日本で初めてである。今後、多種類の在来魚が生息するため池生態系の復元を目指す。

【参照資料】

「大崎市総合計画」(H20.2)

「大崎市国土利用計画(第一次)」(H21.3)